

# 飲水思源

町長

松岡市郎

## 巳(蛇)の年を迎えて

昨年12月号、この欄の冒頭に「卯の年も残すところ…」と書いてしまったが、実際は「辰の年」であった。私の頭の中から「辰年」が消え失せていた。辰(龍)年といえば、幼いころから顔や頭の形は多少違うが「巳(蛇)」に足が付いていて歩き、かつ天へ舞い上がるものが辰(龍)だと思っていた。だから龍は蛇足のようなもの、が私のイメージである。この1年間、龍が頭の中からすりとりと消え、時が過ぎたのであるから浦島太郎だった。まったくもって、おめでたいことだ。よく考えてみると、昨年は時の過ぎゆくことを考えなかったのか、いや考える余裕がなかったのか。どうも後者のように思う。良く解釈すれば蛇足、余計なことを考えなかったのか、と自分に納得するしかない。というわけで干支(えと)を誤ってしまったことにお詫び申し上げます。

さて、今年は政権が交代することになった。3年数カ月ぶりである。どのような年になるのか、大きな期

待と、一方では不安もあり複雑な心境である。

町づくりにおいてやるべきものたくさんある。一つひとつ確実に実行していくためには、政治の力、つまり国の政策に頼らざるを得ないところも多いのである。特に小さな自治体は共通して地方交付税や交付金補助金に依存している。どのような制度改革になり、地方分権が進むのか。自治に係わる者にとっては関心が高い。国や道に依存しながらも、目指すところは、自らの力で町の将来を決める力をつけることにある。

一つの事業を展開するにも2つの道がある。川に例えるならば直線的に海へ水が流れる道と、急流河川では直線的に流れたのでは大変危険なので、蛇行して海へ流れつく道である。

今年「龍」の年を卒業し、「蛇」の年である。蛇行運行も併用しながら、時代の流れに順応できる町づくりが必要な時でもある。蛇足ではあるが、「竜頭蛇尾」などと揶揄(やゆ)されないよう気を引き締めて頑張りたいものである。

だいせつざんのすがお

## 大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人々をリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

### 冬山セーフティー

昨年は記録的な大雪で冬の始まりとなった。しかも12月以来、湿った雪が大量に降る日々が続いている。スキーヤーやスノーボーダーにとって、うれしい冬の始まりだ。テレマーカー(踵が上がるスキー)である私も、早く山へ行ってパウダースノーを味わいたいところだが、冬の準備が間に合っていない。

準備とは、道具、体力、そして安全に対する(特に雪崩対策)準備だ。道具はすぐに準備できる。体力も、山を登っていれば徐々に冬山の感覚に戻ってくる。しかし大量に雪が降り続けると、やはり雪崩の可能性が頭をよぎる。

道具、体力のほかに、安全に対する準備は重要だ。雪崩対策の道具は使用できるか? そして雪崩発生時に捜索する方法を復習しておく。これが大切な心の準備にもなる。

10年前くらいになるだろうか? 旭岳の盤の沢で、スキーヤ

ーが雪崩で亡くなる事故があった。当時旭岳で監視員をしていた私は、早春に事故から数カ月間雪の中で眠っていた遺品のスキーを見つけ、それを持って残雪の斜面を歩きながら山麓へ向かった。

夏も冬も馴染みのある盤の沢。ちょっとした程度の斜面にもかかわらず、雪崩によって人が犠牲になった。遺品となったスキーを運んだ時の感触が今でも残っている。

夏山でも、遭難者や傷病者の対応に関わった。その経験もあって、レスキューに関して強く関心を持ち始めた。

先月号で紹介した「バンフマウンテンフィルムフェスティバル」イベントを通して、山でスキーやスノーボードを楽しむ人々にたくさん出会ったが、意外と冬山の常識である雪崩対策に対する意識がまったくない人達もいて驚いた。

アウトドアスポーツを楽しむきっかけを作る一方で、自然の厳しさ、危険事項への意識向上と対応方法を知ること、「山での安全に対する意識」を伝えていく重要性を感じている。昨年暮れ、山スキーのメッカ、三段山(上富良野町)で、今冬早くも雪崩による犠牲者が発生した。大雪の冬を迎えている山で、避けられる事故が起こらないことを祈る。

青木 倫子